

# 令和7年度 浜松市立佐久間中学校 学校評価報告書

## 1 自己評価

自己評価結果、考察及び改善方策  
別紙のとおり

## 2 学校関係者評価

2月13日(金)に開催した学校関係者評価委員会(学校運営協議会)において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ・ 自己評価結果を見ると、生徒、保護者、教員のいずれも肯定感が高く、不登校の生徒がいないことから学校教育への満足度が高いと感じる。いじめ認知数が年間で1件と聞いたが、対象生徒も内容を正直にアンケートに回答していることから、生徒と教職員の人間関係の良さが感じられる。
- ・ いじめの訴えが、どこにでもある小さな事案で良かった。生徒は少ない人数の中での人間関係づくりを学んでいる。正直に伝えてくれること、保護者も認識していることが大事だと感じる。小さなトラブルを乗り越えることも必要。
- ・ 以前は生徒の自己肯定感が低いことが課題だったが、自己肯定感が高まったのか。生徒アンケートの結果がほぼ100%であることは驚きで、探究的な活動が軌道に乗ったことも要因のひとつか。
- ・ 肯定感が高い一方で、⑥では「学習成果につながっていない」という見方もある。探究的で体験・解決型の学習への取組に満足度が高くなっていることは良いことだが、中学校には入試という学力の定着を試される出口もあり悩ましい。学力定着のトレーニングが必要なのも事実。

## 3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・ 学校評価アンケートの結果に慢心することなく、課題として見えてきた「基礎学力の定着」に向け、探究的な学習活動の充実と日々の授業での学力定着が両輪となる授業を展開していく。
- ・ いじめの早期発見できるよう日々の生徒の様子や変化を見逃さず、職員間で情報共有し、組織体制での解決を図る。
- ・ めざす学校像を「佐久間地域に根差した安全で安心な学校」「なりたい自分を実現する魅力ある学校」に据え、引き続き、地域の思いや生徒一人一人の思いを大切にした教育課程を編成する。
- ・ R8年9月からの休日部活動の地域展開の本格実施に向け、地域の特性を踏まえ、佐久間ならではの体制づくりと運営ができるよう、地域や保護者に向けた情報発信をしていく。

R7 佐久間中学校 学校評価（自己評価）

回答人数 20人 21人 11人 7人

1 目指す学校	生徒	保護者	教員	協議会
①学校は、生徒一人一人の個性や気持ちを大切にしている。【一人一人が主役となって輝く学校】	100	100	100	100
②学校は、安全で安心できる場所である。【安全で安心できる温かな学校】	100	100	100	100

2 目指す生徒		生徒	保護者	教員	協議会
【多様な考えを受け止め、多様な見方ができる生徒】・・・かかわる力					
①生徒は、自分と違う考えの他者を受け止め、多様な見方をしている。	中高交流会 地域との交流	100	100	100	86 6人
②生徒は、自分の思いや意見を表現したり他者の考えに触れたりして、広い視野や多様な視点で考えようと努めている。	ST体験活動 世代間交流	95 19人	95 20人	100	86 6人

【自ら働きかける気概をもち、実践できる生徒】・・・みつめる力		生徒	保護者	教員	協議会
③生徒は、自分の役割を責任を持って果たそうとしている。	合同体育祭 文化発表会	100	100	100	100
④生徒は、何事にも全力を尽くし、課題や目標に向かって計画を立て実行している。	立志式 マラソン大会	100	100	100	100

【未知の状況にも対応できる実践力をもった生徒】・・・ふかめる力		生徒	保護者	教員	協議会
⑤生徒は、自ら課題を見つけ、協働的な学びを通して課題解決しようと努めている。	ST終日活動 メタ認知講座	90 18人	100	100	100
⑥生徒は、学習や取組を振り返り、自分が得意なこと（できること）と苦手なこと（できないこと）を把握し、学習の仕方に調整や改善を加えようとしている。	スマートグラス体 験	100	85 18人	54 6人	86 6人

【新たな価値を創造し、自己の成長につなげる生徒】・・・かなえる力		生徒	保護者	教員	協議会
⑦生徒は、授業で学んだことを日常的な場面で生かそうとしている。	STリサイタル 修学旅行	90 18人	95 20人	90 10人	86 6人
⑧生徒は、郷土の「人・もの・こと」に学び、郷土を大切にしようとする気持ちを持っている。	職場体験 佐久間夢講座	100	100	100	100

評価については5段階（1 そう思う 2 だいたいそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 5 わからない）で行った。上記の数字は1と2をあわせた肯定的にとらえている意見のパーセンテージを示している。  
★協議会の86%（6人）の残り1名の回答は「わからない」である。

1 目指す学校 【一人一人が主役となって輝く学校】【安全で安心できる温かな学校】 → 4者とも高い数値を示している。昨年度はそう感じていない生徒や保護者がいたが改善されている。
2 目指す生徒 【多様な考えを受け止め、多様な見方ができる生徒】・・・かかわる力 → 4者とも高い数値を示しているが、生徒数が少ない中で「多様な」の捉え方が難しくなっている。
【自ら働きかける気概をもち、実践できる生徒】・・・みつめる力 → 行事においては役割を責任をもってしっかり果たそうとしている。
【未知の状況にも対応できる実践力をもった生徒】・・・ふかめる力 → 自ら課題を見つけたり、協働的な学びを通して課題解決することが苦手な生徒が若干いる。 「調整や改善を加えている」かの判断が難しく、学力が定着しない課題も浮き彫りになっている。
【新たな価値を創造し、自己の成長につなげる生徒】・・・かなえる力 → 教科やST（総合）で得た学び方やまとめ方などを、別の場面でも生かすことができるようになってきている。